

## アイルランドと欧州連合 - 共通の決意、共通の運命

クリスティーヌ・ラガルド  
国際通貨基金 専務理事

2013年3月8日  
ダブリン、ダブリン城

おはようございます。こんにちは、友人の皆さん (*Dia daoibh a chaire!*)。本日、この誇り高く素晴らしい国に、美しく活気に満ちた文化都市に、何世紀にも渡り歴史を見つめてきた神聖な場にこうして立つことができ、大変光栄です。

まず、アイルランド首相及び同国副首相、ヌーナン大臣、ハウリン氏、バートン氏、フィッツジェラルド氏、クレイトン氏、そしてパトリック・ホノハン総裁をはじめ、この度の一連のイベント及び会合を開催するにあたりご尽力いただきました関係者の皆様に感謝いたします。また、マイケル・ヌーナン大臣に身に余るご紹介のお言葉をいただき恐縮しております。

本日我々を迎えて下さったアイルランド国際問題研究所、特にチェアマンであるブレندان・ハリガン氏とディレクター・ジェネラルのダーヒ・オ・ケリー氏に感謝いたします。本日ご列席くださいました、大使の皆様、ビジネス界、労働組合、市民社会そして学界代表の皆様にも御礼申し上げます。

アイルランドは、文化、科学技術、スポーツといった分野で、予想を上回る著しい功績を残してきました。なかでもスポーツに関しては、フランスは明日この事実を思い知ることになるかもしれません。アイルランドは常に大変力強く改革に取り組み、素晴らしい精神に溢れた国です。繰り返し逆境に立たされてきましたが、その度に前にも増して力強く自信を持って立ち上がってきました。

今日も例外ではありません。エンダ・ケニー首相がおっしゃったように、アイルランドの人々は経済危機という重荷を「驚嘆すべき勇気と忍耐力、そして静かな威厳をもって」耐え忍んできました。

これは、アイルランドの人々が古くから持つ信頼と団結心という絆に裏打ちされた内なる強さと決意の上に成り立つ、強い忍耐力の証左だと確信しています。かつて、

アイルランドの偉大な作家であるエドナ・オブライエンが「並々ならぬ我慢強さ」と呼んだ気質です。

ですから、アイルランドが歴史の今この時に、欧州連合（EU）の議長国を務めていることはまさに理想的だと言えます。議長国のテーマは「安定、成長、雇用」ですがまさしく的確であり、これこそが本日私がお話したいことでもあります。

とりわけ、アイルランドと EU 全体で「安定、成長、雇用」を取り戻すためには、これまで以上に共通の目標に向けた決意を共にする必要があります。このことから、私は以下3点についてお話したいと思います。

1. アイルランドについて - アイルランドは「安定、成長、雇用」を回復するために、何をなすべきか。
2. 欧州の短期的側面 - 経済回復を支える
3. 欧州のより中期的な側面 - 一段と強力なユーロ圏の構築

## 1. アイルランドについて

では、アイルランドから始めましょう。アイルランド経済の奇跡の変転、そして実際に存在した「ケルトの虎」が、バブルを背景とした杜撰な融資に沸き、民間債務が蓄積し地価が高騰し競争力が損なわれるなど、偽りの「虎の亡霊」へとどのようにはどなく変容したかは皆さんの良く知る所です。これは、監督機能がほとんど無いなかでの過剰でした。

アイルランドは最も厳しいランディングに直面しました。わずか3年間で、実質生産高は8%縮小しました。雇用は2008年から15%落ち込み、住宅価格は半分まで下落しました。銀行システムが崩壊し、国民はその尻拭いをせねばらず、その規模は対GDP比で40%に達しました。同時に歳入が崩れ落ちたことで、公的債務は僅か5年で対GDP比で100%も拡大するなど驚くべき事態となりました。

ここでこれまでの危機への対応を振り返るとともに、今後の課題についてお話ししましょう。

## 危機への対応

危機への対応は「粘り強い」の一言に尽きます。このアイルランドの決意は、主体性、現実主義、結束という主に三つの側面においてみて取ることができると思います。

まずは、主体性から考えてみましょう。当初より必要な政策を実施するという強い政治的意思がありました。現政権、前政権共に、アイルランド政府は手綱を引き締め、危機を乗り越えるというコミットメントが揺らぐことは決してありませんでした。

ここでの IMF の役割は、我々の加盟国を支援することでした。そして、現在我々は、欧州連合と ECB（欧州中央銀行）と連携し支援を引き続き行っています。我々は、今後の道筋を設計するために協力しており、エンジンをかけるためのガソリンは喜んで提供します。しかし、運転席に座るのは引き続きアイルランド政府でなければなりません。

それでは我々の支援とはどのようなもののでしょうか。我々には、188カ国・70年に及ぶ経験があります。この経験を基に政策助言を行い支援します。我々は融資を行い支援します。他が立ち去っても、苦しい時の困難を軽減するために、そしてより良い明日への橋をかけるお手伝いをするために融資を行います。

この主体性は、現実主義と一体化していました。すなわち、アイルランドの人々は、それまでの状況は持続不可能だったと理解し国益のために団結し、つらい経験を受け入れ厳しい選択を行いました。

これまでの数年で何を成し遂げて来たのでしょうか。

アイルランド政府は、銀行制度の抜本的改革に着手しました。この改革計画は、レバレッジ解消、資本増強、そして再編成という3本柱に立脚していました。言い換えるならば、スリム化し余分な脂肪をそぎ落とし、資本を増強することで丈夫な身体を作り、実体経済のために責任ある行動を取るということです。

これまで大きな進展を遂げてきました。膨張した銀行部門の規模は縮小し、新たな基金から240億ユーロが銀行再建を支えるために注入されるなど、資本増強も十分に進みました。そして、民間投資を活用し劣後債保有者との間で負担分配することで、国民への負担が170億ユーロに押さえられました。

また、資本増強を支えた厳格かつ透明なストレステストも、他の手本となっていることもお伝えすべきでしょう。

さらにアイルランド政府は、予算の面でも大きく前進しました。最も困難な状況にありながら、同国政府は GDP の 12% に相当する赤字削減措置を導入、今後 2~3 年でさらに同 5% 削減する予定です。これは、給与、社会福祉、税の面で厳しい決断を下すことを意味します。直近では、アイルランド政府は公的部門の組合のトップと、2015 年までに年 10 億ユーロに相当する削減を行うことで合意に達しました。

ここで、アイルランドの決意の第 3 の側面である *結束* についてお話ししなければなりません。アイルランド政府は、社会的結束を維持し主要な公共サービスを守るとともに最も脆弱な層のために救命胴衣を用意すると同時に、このような決定を下してきました。これにより、アイルランドは貧困の大幅な拡大を回避することができたのです。

私はこれは、アイルランドが長年大切にしてきた社会的パートナーシップの伝統から生まれたと考えています。これは、マイケル・ヒギンス大統領が「『我々の強みは共通の福祉—すなわち社会的結束—にある (*ní neart go cur le chéile*)』ということわざの深い意味を理解している人々」について語った際の、この言葉の中にもっとも端的にあらわれていると思います。

今後何をすべきか

それでは、これからのこと、すなわち今後の課題についてお話いたします。

既に申し上げたとおり、アイルランドの努力は実を結びつつあります。成長は回復しました。我々は、今年のアイルランド経済は 1% 拡大すると予測しています。これは依然として弱くこれまで 2 年間と比べ大きな差はありませんが、それでも大半の欧州連合の国々より良好な数字です。さらに重要なことに、アイルランドは 2012 年に債券市場に復帰、今年になってもアクセスは引き続き改善しています。

ですから、ペイグ・セイヤーズが何と言おうとも、アイルランド経済は「片足は墓場にそしてもう片方の足はそのギリギリにある」わけではないのです。

アイルランドは成功の第一の実を目の前にしていますが、一方で収穫はまだ先の話です。家計債務は可処分所得の 208% に上り住宅ローンの 15% が返済遅延となっているなど、人々は依然として債務まみれです。公的債務は、GDP の約 120% に達し、銀行は損失を出し続け、融資 4 件のうちほぼ 1 件が焦げ付いています。失業率は

14%を越え若者ではこの数字が倍になるなど、依然としてダメージを及ぼすほど高くなっています。

以上のことを踏まえれば、今後の優先課題は、民間債務の問題を解決し、効率的かつ効果的な公共サービスを実施し、失業問題を改善するという3点だと言えるでしょう。

*民間債務について:* ここで重要なことは、問題のある融資についてはケースバイケースで解決していくということです。家計・企業にかかわらず支払いが困難な者に対し持続的な道筋を見つけることが必要です。なかでも、存続可能な中小企業が、事業拡大と雇用に必要な資金を得ることが重要です。なぜならば、この部門がアイルランドの雇用の72%を占めるからです。

根本的には、銀行と債務者が共に債務問題の持続的な解決策を見出すとともに、検討中の倒産や担保差し押さえなどはこれ以上良い選択肢がない場合の最後の手段とすべきです。

*公的部門について:* アイルランドは、質の高い公共サービスの提供に努めるとともに、全ての国民に対し社会正義という責務を果たさなければなりません。しかし、予算面の現実に照らせば、保健、教育、社会的保護といった最も重要なサービスへの中核的な公共ニーズを満たすことに注力すべきでしょう。

こういった中でアイルランドは、負担を公平かつ公正に分担し、最も困窮した立場にある人々を保護することで、社会的結束の維持に努めなければなりません。我々が、保留となっている固定資産税を支持しているのはこのためであり、これは赤字を削減する累進的な手法だといえます。

*失業について:* 喫緊に取り組むべき課題として、政府は長期的失業という弊害に取り組まなければなりません。失業期間についての数字を見れば明らかですが、失業者の60%が1年以上30%が2年以上となっています。長期に渡り失業している人々はその技術を失う傾向にあるなど、これは経済にとり極めて重要な問題です。

ですから、我々はこのような人々に対する雇用支援に改めて取り組む必要があります。成長率の上昇が雇用の回復の前提条件であることは明らかです。当面は、一部EIBの資金拠出も受け官民の投資プロジェクトを加速化することが有効でしょう。さらに職業紹介業務は、適切なインセンティブや適切な雇用のための適切な技術を重視するなど、再活性化する必要があります。欧州のパートナーと共に、我々はア

アイルランド政府に対し、十分に訓練を積んだ職員をこの重要な分野に再配置するよう促してきました。

我々は「安定」も「成長」も、究極的には「雇用」そして人々のためのものであるということを、決して忘れてはなりません。

アイルランドの運命はこの3点にかかっているのです。

## 2. 欧州の短期的側面 - 経済回復を支える

言うまでもなく、アイルランド経済は孤立した状態で動いているわけではなく、欧州連合、とりわけユーロ圏経済に深く組み込まれています。ですから、ここで欧州についてお話ししなければなりません。

アイルランドの人々は、欧州の中で生きることを選択しました。これは、極めて良い成果をもたらしています。小さな違いより共通の利益を重視し、壮大なビジョンである恒久平和と繁栄の共有を実現する統合と一体化という偉大な試みのもと、欧州のより偉大な目標と共に進むことを選択しました。

欧州の運命はアイルランドの運命です。「我々が最も快適に過ごせる場所は、他の影ではなく他と共に生きることで見出せる」というケニー首相の言葉がこれを雄弁に物語っています。

ここで、ヨーロッパ大陸全体で「安定、成長、雇用」を回復するために - そしてこれが今度はアイルランドの努力を大きく支えることとなります - 、欧州レベルでなすべきことについてお話いたします。

昨年の夏以降、我々は大きく前進し金融を巡る不安がある程度緩和されたことは間違いありません。これは、欧州安定メカニズム、ECBの国債買取制度、そしてギリシャの巨額の債務負担の削減に関する合意など、様々な面で欧州の政策当局が前進を遂げた証左です。

しかし、こういった改善へのセンチメントが雇用や所得の向上につながっていません。市場を支えたかも知れませんが、人々を支えてはいないのです。

根底にある問題は、長期化した家計、銀行、企業そして政府の多額の債務という、悲しくなるほどお馴染みのものです。様々な部門がこういった負担を振り払うために努力していることから、成長が影響を受けることとなります。実際、今年ユーロ圏は景気後退局面が続くと我々は予測しています。

こうしたなか、マクロ経済政策は需要の下支えに貢献することができます。これは回復が輸出主導で進むアイルランドでは極めて重要であり、輸出は、パートナー国の適切な需要水準によってのみ維持することができます。

これは実際には何を意味するのでしょうか。これは、金融政策は引き続き緩和的である必要があることを意味しており、この点について我々は、ECBには金利を一段と引き下げる余地が、限られてはいますがある程度は存在すると確信しています。

今後については、国債買取制度は、厳しい市場の制約下にある国々の資金調達コストを引き下げること、金融政策の効果を高め財政調整努力を支えることになるでしょう。同時に、我々は、プログラム実施国が正しい軌道に乗っている場合、こういった国々は、市場アクセスの回復と公的支援への依存を減らすための支援を受けべきだと考えています。

一方で、財政政策にはより注意が必要です。公的債務は巨額であり、方向性は債務の拡大ではなく縮小でなければなりません。しかし、ペースが何よりも肝要です。総じて、慎重かつ一定のペースで行うことで、債務削減と回復の下支えの間で適切なバランスを取ることができるでしょう。

同時に、「慎重かつ一定」とは、ヘッドライン赤字目標を重視したり、税収のあらゆる落ち込みや成長の鈍化が唯一の原因である歳出の拡大に抗うことなく、永続的措置を伴った信頼できる中期的計画を策定しこれをやり通すことを意味します。

私は、欧州の現行の財政枠組みは調整を正しく行うための柔軟性が十分に組み込まれていると確信しています。

さて、需要といえ、欧州では南部と比較し北部がはるかに力強いなど、不均衡であると理解しなければなりません。この多くは、相対的な競争力の問題を反映しています。バランスを回復するには、南部のインフレの低下と賃金の上昇が必要ですが、同時に可能な国々でもインフレの若干の上昇と賃金の上昇が必要になるかもしれません。これもまた、欧州全体の結束という側面でもあります。

もう一つ付け加えるならば、我々は需要にどのような形で火が付いたのならば、これが持続的成長につながるようにしなければなりません。これは、経済の供給能力を拡大するための改革が必要であることを意味します。IMFはこの点においていくつかの興味深い研究を行いました。欧州全体で、大規模な製品市場、労働及び年金の改革を行なうことにより、5年間で産出高レベルを4.5%引き上げる可能性があることが分かりました。

しかし、この上昇の4分の1は連携という協調的な取り組みによるものであることから、ここでもやはり協力は不可欠です。

### 3. 欧州の中期的な側面 - 一段と強力なユーロ圏の構築

中期的な課題として、私の3番目のトピックである、より強力なユーロ圏、すなわち今後何年にも渡り加盟国を問題なく支えることができるユーロ圏を構築する、に移りたいと思います。

多くの点で、欧州の経済危機は不完全な統合の危機でした。ユーロ圏は、緊密に結びついたクラブではありましたが、強固なコミュニティではありませんでした。友情という絆で結ばれてはいましたが家族ではありませんでした。十分に機能した部分の集りでしたが、調和の取れた統一体ではありませんでした。

単一の市場と単一の金融政策は存在していましたが、銀行の監督機能は散り散りで、財政の統合は限定的でした。

これは変わってきています。ユーロ圏は今、統合の深化への道を歩んでいます。我々は、各国の利益を越え、ゴールに向かって邁進するためのユニークな機会を手に行っているのです。

ここで私は、ノーベル賞を受賞したシェイマス・ヒーニーがかつて述べた「待ち焦がれたまたとない正義の波が高まり、希望と歴史が奏でる.....ここから遠くの岸にたどり着くことが出来ると信じるのだ」という言葉を思い出します。

その岸は間違いなく我々の手が届く所にあります。岸とは、銀行同盟であり、ユーロ圏の銀行を監督する単一の監視メカニズムに関する合意です。

分裂したシステムにおいては、銀行の命運は政府にそして政府の命運は銀行に縛られています。片方が落ちれば、もう片方も落ちていきます。ここアイルランドで皆さんは、銀行の破綻が政府をどのように巻き込み、政府・銀行・実体経済の壊滅的な死のループが生まれたかを目の当たりにしました。

銀行同盟が機能することで、このリンクを破壊し安定を確固たるものにします。分裂に終止符を打ち、通貨同盟の実効性を高めます。リスク集中の蓄積に対処し貯蓄の逃避を止めます。金融政策の効果が向上します。

結末の問題です。銀行同盟により、問題を抱えた銀行は一国ではなく全加盟国の問題になります。アイルランドもこれを経験しました。アイルランドの銀行は過剰に

借り入れを行い、監督が不十分だったことは間違いありません。しかし、欧州の銀行もアイルランドの銀行に過剰に貸し付けを行っていたのです。これはコインの両面であり、共通の監督機能を筆頭に共に責任を分かち合うことが必要です。

ですから、ECB を中心とした単一の監督メカニズムの導入が重要なのです。その責務、権限、そして説明責任を明確にする必要があります。そして、仕事を行うために必要なリソースを備えてなければなりません。

しかし、単一の監督機能だけでは十分ではありません。問題を抱えた銀行を、時宜を得た形で最低限のコストで - 民間部門と負担を分担することも含め - 再編或いは閉鎖することができる単一の破たん処理機構も必要です。さらに、信認の維持のために共通の預金基金など共通のセーフティネットが必要であり、国境を越えた金融システム全体の問題に対処するための共通のバックネットも必要です。

こういったパッケージが導入されることでようやく、政府と銀行の有毒な関係を打破することができるでしょう。

一方で、これにより今後の安全性は増しますが、危機の後の混乱に依然として対処しなければなりません。システミックではない問題を抱えた銀行は国レベルで対応することができます。しかし、一国で対処するには大きすぎる、システミックな銀行の場合はどうでしょうか。ここで、欧州安定メカニズムによる直接的な資本増強が重要な役割を果たすことになるでしょう。これにより、加盟国でコストを分担することになります。すなわち、重量挙げには、1組ではなく 17組の手があったほうが良いということです。

これは特にアイルランドにとり重要です。生存可能な銀行に対する直接的な資本増強は、欧州に対する債務の一部を株に変えることで、公的債務を引き下げるとともに、経済状況がさらに悪化した場合に考えられる、さらなる支出負担から政府を守ることにつながります。また、これは、政府と銀行がより良い条件で市場にアクセスできるよう支えることにもなるでしょう。

これまで、私は金融リスクの防止とプール化についてお話してきました。最終的に、統合の深化は、より強固かつ安全な経済及び通貨同盟 - そしてこれは持続的かつ強固な財政同盟も含める必要があるでしょう - の更なる成功につながるでしょう。そしてこれこそが、間違いなく我々全ての利益となるのです。

## 最後に

最後になりました。はるか昔から知られるように、アイルランドは常に世界に門戸を開いており、これが、アイルランドの強みとなってきました。

欧州が暗闇に迷い込んだ時に、学問の灯を守ったのは修道士コロンバヌスをはじめとしたアイルランドの修道士達でした。

産業革命の時代から、アイルランドから遠く離れた土地で、道、線路、研究所、高層ビルが建設されたのは、アイルランドの創造力によるところが大きいです。

一時期孤立した後、T.K. ウィテカーをはじめとする明確なビジョンを持った先見の明がある人々が、アイルランドが統一された欧州の中で新たな運命を築くなか、素晴らしいことに世界に再び門戸を開く道筋をつけたのでした。

アイルランドの人々は常に時代の先を行っていました。大きな夢を抱くことを決して恐れませんでした。ウィリアム・バトラー・イエイツは言いました。「私はあなたの足元に夢を広げた。そっと歩いてくれ、私の夢の上を歩くのだから」

これまでの2~30年間で、ダイナミックで繁栄した自信に溢れた国の夢は現実となりました。そして今日、深刻な挫折を前にしてもこの夢は生き続けているのです。

一方でイエイツはこうも言っています。「夢の中で責任がはじまる」。責任とはアイルランドと欧州の共同責任であり、共通の運命に向けた共通の決意なのです。

ご清聴ありがとうございました。どうもありがとう (*go raibh míle maith agaibh!*) 。